「共生社会実現のまち　渋川市」推進共同宣言

渋川市は、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが自分らしく生き生きとした人生を送り、さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会の実現を目指した取組を進めています。

多発する未曾有の災害や、感染症をはじめとした新たな社会課題への対応など、多様化する多くの社会問題と直面する今こそ、すべての人が社会の一員として共生社会を築きあげる役割を担い、“自分らしく”、“たがいに寄り添い”、“共に生きる”社会を創るため、私たちは「共生社会実現のまち　渋川市」の推進に向け、以下のとおり協働して取り組むことをここに宣言します。

一、差別、虐待、暴力を否定し、お互いの人権や尊厳を大切にします。

一、社会に存在するバリアを理解し、これを取り除くための行動を起こします。

一、お互いが持つ資源、素質を最大限活用し、様々な課題の解決に向け取り組みます。

一、共生社会の機運の醸成を図ります。

年　　月　　日

渋川市長

○○　○○

（団体名称）

代表

○○　○○

共生社会実現のまち

渋川市

＜宣言文解説＞

【前文】

渋川市では、全ての人が互いの人権（私たちが幸福に暮らしていくための権利）や尊厳（その人の人格を尊いものと認めて敬うこと）を大切にし、誰もが生き生きとした人生を送ることのできる社会の実現に向けた取組を進めており、令和元年10月11日、内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部から、ニュージーランドとの「共生社会ホストタウン」に登録されたことを契機に、その取組をさらに加速させています。

私たちは、子どもから若者、成人、そしてお年寄りという人生のステージ、そして障害や思想など、それぞれの個性を持ち合わせています。その全てのライフステージ、様々な個性において、人は決して一人では生きておらず色々な人とお互いに関わりながら生活をしています。

これまで私たちは、感染症や大規模災害など社会を揺るがす出来事に直面してきました。その過程で、差別や偏見、分断といった負の側面が顕在化した一方、誰かのために何かをしようという思いや支え合いの輪が広がり、多くの結束が生まれました。これらの経験は、人は決して一人では生きられず、支え合いによって社会が成り立っていることを改めて気づかせるものとなりました。

今、私たちに求められているのは、この思いを継続させ、人と人とのつながりをさらに強めることであり、地域の多様な主体が個々の能力を最大限発揮することで、共生社会実現に向け共に歩むことです。

【各事項】

● 差別、虐待、暴力を否定し、お互いの人権や尊厳を大切にします。

⇒ あらゆる差別や暴力を含め、全ての人が社会から引き離されることは、人権や尊厳を害することであり、自分らしく生きる社会実現には不必要です。
人のために何かしようという思いが強まった今こそ、幸福に暮らしていくための権利、その人の人格を尊いものと認めて敬うことを大切にします。

● 社会に存在するバリアを理解し、これを取り除くための行動を起こします。

⇒ 「障害」は障害者自身が持つものではなく、社会そのものにあります。私たち自身が当事者ではないという事実を受け止めつつ、当事者の声を尊重しながら、お互いが歩み寄り課題解決に向けた行動を進めます。

● お互いが持つ資源、素質を最大限活用し、様々な課題の解決に向け取り組みます。

⇒ 地域で「共生社会の実現」という大きな目標に向かうため、様々な主体がこれまで培ってきた知識や経験を生かし、目の前の危機や今後の地域課題解決に向けて共に取り組むことが求められています。

● 共生社会の機運の醸成を図ります。

⇒ 人と人との支え合いにより社会が成り立っていることを踏まえ、自分本位ではなく「お互いさま」という姿勢を社会の仕組みとして広げ、共に生きる社会実現に向けた機運の醸成を図ります。